

史境

En Marge de l'Histoire

目次

〔講演〕

漁業における人為と自然
—福島震災後の管理漁業—

..... 川島 秀一 (1)

〔論文〕

戦間期ドイツにおけるランゲマルクへの戦地巡礼

..... 澤 奏子 (15)

清初入関前後の行政組織の官制とその運用原理の推移
—官位・品級との関係に着目して—

..... 半田 真士 (32)

日中戦争時期、江南農村における汪兆銘政権の統治と民衆の生活
—江蘇省丹陽県の事例を中心に—

..... 彭 高明 (50)

家譜を書き残す子孫たち

—沖縄における私家版・自費出版というメディア—

..... 武井 基晃 (71)

〔書評〕

後藤知美 著

『旅館おかみの誕生』..... 森田 真也 (86)

彙報..... (92)

83

2024. 3

歴史人類学会

投稿要領

会員の皆様からの原稿は、次の要領に従い掲載します。

一、原稿はたて書きを原則とし、印刷経費削減のため、ワープロソフトを用いてお出し願います。原稿（打ち出し二部）とそのデータ（USB、CD-ROM、フロッピーディスク、メール添付等）を送って下さい。投稿を希望する会員は、事前に編集委員会へお問い合わせ下さい。

一、原稿の枚数は論文が五十〜六十枚、研究ノートは三十〜四十枚、書評は十五〜二十枚程度とします（四百字詰原稿用紙に換算）。勤務先、目次用の外国文タイトル、また論文の場合、希望者は三百字程度の外国文要旨を付けて下さい。

一、図、表、写真などは一葉につき本誌一頁（B5）の判内とし、一頁分原稿用紙三枚に換算したうえで、投稿枚数に含めます。版下原稿とし、挿入箇所を指示して下さい。ただし、分量が著しく多い場合は再考を促すこともあります。

一、締切は特に設けておりませんが、六月末を目途に御投稿下さい。一、投稿論文の採否については、専門分野の研究者複数による審査を経て当委員会判断し、できるだけ速やかに通知いたします。

一、著者へ、論文・研究ノートの場合は、本誌十部、書評の場合は五部を無料で進呈します。抜刷の作成は自己負担でお願いいたします。

編集担当委員

編集後記

機関誌『史境』第八十三号をお届けいたします。本号には講演一本、論文四本、書評一本を掲載いたしました。

講演は、二〇二二年一月二六日に完全オンラインで開催された年次大会での公開講演の講演録です。川島秀一先生（日本民俗学）におかれましては、新型コロナウイルスの影響下、オンラインでの講演をお引き受けくださいましたこと、改めてお礼申し上げます。

掲載論文は西洋史学が一本、東洋史学が二本、民俗学が一本です。内三本は大学院生による投稿論文で、若手研究者による最新の研究成果です。このほか、書評（民俗学）もご寄稿いただき、近刊の好著を評すること本誌の学術的な役割を果たすことができました。今後とも会員の皆様には歴史学・人類学の分野にわたる当学会を研究発表の場としてご活用いただきたいと思います。

最後になりますが、今号の刊行も遅れてしまいましたことにつきまして、投稿者をはじめとする会員の皆様および関係者各位にお詫び申し上げます。次の『史境』第八四号の編集も始まりますので、お手元の研究成果をご投稿くださいますよう、お願いいたします。本学会への諸々のご連絡は、巻末に掲載しましたメールアドレスあるいはハガキ・封書でお寄せください。

史境 第八十三号

二〇二四年三月三十一日 発行

定価四、〇〇〇円

編集・発行 歴史人類学会

筑波大学 人文社会科学系内

〒305-1871 茨城県つくば市天王台1-1-1

メール rekjin.gakkaikai@gmail.com

印刷 株式会社イセブ

茨城県つくば市天久保2-1-1-110